

活動報告

団 体 名	Camp
活 動 名	被災地における支援活動を円滑に行うための事業
活動期間	2021/08/10～2021/01/31
活動の成果	①久留米市城島町（2000 世帯）：久留米市では 4 年連続 5 回目の浸水被害で、被害に遭われた方のほとんどが「毎年のことだから」と半ば諦めている人と、床上まで浸水しなければ被害ではない、と考える人が多く、ボランティアセンターへの依頼に繋がらないケースがほとんどだった。このことから、今回の初動の活動はボランティアセンターの存在を周知する事や、床下浸水の家屋の方へ被害について説明を実施する為の周知活動及びポスティングでした。成果として、多くの被災家屋への点検から清掃・乾燥・消毒作業への依頼へと繋ぐことができた。また、支援活動が活発になる事で、訪問調査の際には遠慮していた方も近隣の支援活動を見たり、口コミ等で、作業内容を知る事によりボランティアセンターへの依頼に繋がった。その後、周知活動を 2 周目、3 周目と実施すると、時間が経過による状況変化で、「カビの臭い」や「不安感」から支援活動を依頼される方も現れた。今回の活動はより手厚い支援活動を実施できたと言える。 また、支援者同士の情報共有に関しても、住民の方からの疑問や願いは、活動の終了後に関係者（支援者、行政、社協等）の方々との会議を行うことでその日のうちに情報を共有することができ課題への取り組む方向性を話し合う事が出来た。よって、さらに的確な支援へと結び付けた。 城島町サテライト設置は、支援団体（Camp 等）と久留米市社会福祉協議会職員との連携により広範囲の支援活動に結びついたと思われる。 ②朝倉市安川地区：今回の雨で土砂崩れを起こした山の持ち主と被災されたお宅の方との間でトラブルが発生。私たちが間に入り、対応策の模索・提案を行うことで双方が納得したうえで活動に移ることができた。今回の活動は重機等のテクニカル系作業が必要だったが、コロナウイルス蔓延防止のために外部の支援を呼ぶことが難しい状況でした。しかし、関係者の身内や地域内の協力があり、少人数だがローテーションでの作業を実施する事で、無事に完了することができた。また、支援活動の経験豊富な方に全体の指揮をとってもらいながらリーダーの育成も実施できた。 ③朝倉市松末地区：出水期が終わるまでは土砂が再び落ちてくる可能性があったため、支援活動は遅れてのスタートとなったが、その分、しっかりと準備をすることができた。法面での作業は危険を伴い、その分集中力も必要となるため、テクニカルメンバーと何度も打ち合わせを行ない、活動自体も長時間するのではなく、短時間を何日間かに分けて仮修復作業を行なった。途中、強風の日ブルーシートが捲れ上がり修正作業も入ったが順調に進んでいる。一般の支援者に法面での活動をさせることはできないが、法面上部までの道を土嚢を作り舗装してもらい、法面作業の一部を経験してもらうことで土砂災害の危険性や仮修復作業の方法について知る機会を与えることができた。

寄付者への
メッセージ

毎年のように起こる自然災害において、私たちのような支援団体が発災後、迅速かつ安全に支援活動ができることは、皆様のご理解とご協力のおかげです。誠にありがとうございます。

活動の中で、皆様が預けてくださった気持ちを私たちが被災された皆様へお届けすることで、たくさんの方が救われていると深く感じています。

これまでの経験を途絶えることなく、今後に活かせるよう努力してまいります。ご支援よろしくお願い申し上げます。

(活動のようす)

